

国立大学法人浜松医科大学の平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

浜松医科大学は、優れた臨床医と独創力に富む研究者の養成、独創的研究及び新しい医療技術の開発の推進、患者第一主義の診療の実践して地域医療の中心的役割を果たすことにより人類の健康と福祉に貢献することを目指している。第2期中期目標期間においては、地域社会に貢献できる医師・看護専門職を養成することを目標としている。

この目標達成に向けて、募集人員数の多い前期日程入学試験の配点の見直し、夏休み中の静岡県内高等学校等への訪問と直接説明等の結果、平成23年度4月の入学者115名中静岡県出身者が69名(60%)に達しているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、「浜松医科大学医学部附属病院の教員への称号付与に関する要項」を策定し、特に臨床面で優れた業績のある教員に対して病院教授の称号を付与しているほか、麻酔科医師確保手当の新設及び時間外緊急診療手当、夜間看護手当、看護師業務手当を増額改定し、業務に即した評価を行い、処遇改善を図っている。

財務内容については、地域医療への貢献と特徴のある診療を推進するため、国内で初めてO-arm(オーアーム)ポータブルCTを導入し、脊椎外科、股関節外科において斬新な治療法が実施され、受診患者数が増加するとともに、診療請求額が増加しており、評価できる。

自己点検・評価及び情報提供については、国立大学法人動物実験施設協議会が実施する動物実験に関する相互検証プログラムを受審した結果、医学教育や学生教育に必要な動物実験の管理体制が整備され、適切に動物実験が実施されていることが確認されている。

その他業務運営については、東日本大震災からの復旧・復興に向け、原発事故放射線測定業務を含めて医療救護班3チーム14名を派遣したほか、物資の支援や学内での救援募金活動を行っている。

教育研究等の質の向上については、重点研究課題として掲げている「光技術、イメージング技術の医学応用」等に沿った意欲的かつ斬新な研究内容で、大型外部資金獲得のためのパイロットスタディとなる研究について学内募集を行い、優れた提案に対して研究費支援を行っている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「光とイメージングによる疾患の克服及び健康維持のための医学の発展、およびそれを将来にわたって実現し続け得る人材の育成」を目的として、光量子医学研究センターと分子イメージング先端研究センターの統合を進め、平成 23 年 4 月に「メディカルフォトンクス研究センター」として改組を行っている。
- 副学長（広報・情報担当）を中心に学内に分散している情報に係る学内組織について見直しを行い、教育研究情報部門と事務情報部門を統合し、情報部門の再編を進めている。
- 病院における診療・教育・研究の充実を図るため、「浜松医科大学医学部附属病院の教員への称号付与に関する要項」を策定し、特に臨床面で優れた業績のある教員（4 名）に対して病院教授の称号を付与している。
- 病院に勤務する医師、看護師に対して、麻酔科医師確保手当の新設及び時間外緊急診療手当、夜間看護手当、看護師業務手当を増額改定し、業務に即した評価を行い、処遇改善を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（2）財務内容の改善に関する目標

（①収支の改善、②資産の運用管理の改善）

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 地域医療への貢献と特徴のある診療を推進するため、平成 22 年 11 月に国内で初めて O-arm（オーアーム）ポータブル CT を導入し、脊椎外科、股関節外科において斬新な治療法が実施され、受診患者数が増加するとともに、診療請求額が増加しており、評価できる。
- 外部資金獲得の取組として科学研究費補助金の申請に際し、申請書の提出前に研究推進企画室委員による申請書類の査読、助言が受けられるアドバイスサービスを実施（申請者 77 件）している。
- 引き続き外部の専門業者と物流管理業務支援に関する委託契約を締結し、医療材料等の経費節減を図り、年間購入額で 1,728 万円の経費を節減している。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、斬新な治療法が実施され、受診患者数及び診療請求額が増加し

ていること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 国立大学法人動物実験施設協議会が実施する動物実験に関する相互検証プログラムを受審した結果、医学教育や学生教育に必要な動物実験の管理体制が整備され、適切に動物実験が実施されていることが確認されている。
- 浜松市内病院及び国立大学病院等に加えて、一般患者に向けた附属病院の診療体制、臨床研究及び医師紹介などの情報発信を強化するため、病院広報誌として新たに「はんだ山の風」を発行している。
- 学術機関リポジトリを主題とした東海地区最初のイベントとして、「DRF 技術ワークショップ in 浜松」を企画・主催し、県内外の大学図書館職員に対して、学術機関リポジトリに関する最新動向やシステムを学ぶ場を提供し、学術機関リポジトリの必要性についての認識を高めるとともに、後発大学への構築支援を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②法令遵守)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「はままつ次世代・健康医療産業創出拠点」推進のため、補助金と自己資金を活用し、平成 22 年度にサイクロترون棟及び PET-CT 棟を整備している。
- 基礎臨床研究棟の動物生理系共同実験室を動物実験施設へ集約し、共同機器分析室を再配置し、その空きスペース (220 m²) を改修し、不足していた子どものこころの発達研究センター、大阪大学、金沢大学との連合大学院及び分子イメージング先端研究センターの研究室等に充て、有効活用している。
- 職員証と学生証を IC カード化し、学内の主な施設入退出管理機能を実装することで、学内で利用される数種類のカード機能をすべて統合し、費用削減と職員及び学生への利便性向上を図っている。
- 東日本大震災からの復旧・復興に向け、学長を本部長とする危機対策本部を設置し、原発事故放射線測定業務を含めて医療救護班 3 チーム 14 名を派遣したほか、物資の支

援や学内での救援募金活動を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 静岡県内出身者ができるだけ多く入学でき、さらに高等学校までの基礎学力全体のバランスが取れている生徒が入学できるように、募集人員数の多い前期日程入学試験の配点について見直しを行い、夏休み中に県内高等学校等を訪問し、直接説明するなどの対策を実施した結果、平成23年度4月の入学者115名中静岡県出身者が69名(60%)に達している。
- テレビ会議システムを用いて、地域医療機関との中継による双方向授業を実施するとともに、新たに地域医療10機関での夏期実習を実施している。
- 学生の地域医療に関するアンケート調査を実施し、その結果から、学生の地域医療の重要性についての意識が高まっている。
- 寄附講座「児童青年期精神医学」、「臨床医学教育学講座」を開設している。
- 学生食堂が狭隘のため拡張充実を図り、新たに喫茶コーナーを設置したほか、講義室、大学院修士課程院生室の機器等を整備し、教育環境の充実を図っている。
- 学生と学長等との意見交換会を開催し、各サークル等から要望のあった部室を6室(12クラブ分)新築、体育器具及び楽器の購入、野球場ネットの補強等により部活動への支援を図っている。
- 重点研究課題として掲げている「光技術、イメージング技術の医学応用」、「遺伝子、プロテオーム解析に基づく分子レベルでの疾患原因・病態解析」、「細胞、組織、臓器の移植・再生研究」に沿った意欲的かつ斬新な研究内容で、大型外部資金獲得のためのパイロットスタディとなる研究について学内募集を行い、優れた提案21件に対して、計1,560万円の研究費支援を行っている。
- 動物実験施設の増築・改修をし、川崎市の実験動物中央研究所と連携して哺乳類であるマーモセットの飼育施設を整備し、将来に向けて哺乳動物を用いた創薬研究等への準備を一步進めている。
- 浜松市内の4病院が協働して「5大がん」に対する地域連携クリティカルパスの共通化作業を行い、「患者手帳」を完成させている。

附属病院関係

(診療面)

- 大学病院として血液がんの入院治療等を実施するなど、高度かつ専門性の高い医療

の提供に取り組んでいる。

- 県内医療機関に多数の医師を派遣するなど、地域医療に貢献している。

(運営面)

- 病院教授の称号付与、診療助教制の実施を行うなど、病院職員の士気高揚に努めている。特に看護職員に関しては、看護師長・副看護師長は大学院修士課程を卒業していることが望ましいとし、そのため大学院修士課程進学を支援する事業に関する要項を策定するなど、積極的な人材養成を行っている。
- 入院診療単価を著しく向上させており、安定した附属病院経営及び高度な医療の提供を推進している。